

金沢市子ども・子育て支援事業計画及び
かなざわ子育て夢プラン2015（仮称）
策定のためのアンケート調査結果報告書
【概要版】



金沢市

I. 調査の概要

(1) 調査の目的

子ども・子育て関連三法の制定により、2015（平成 27）年 4 月から、「子ども・子育て支援新制度」がスタートします。

新しい制度では、急速な少子化の進行や子育ての負担感・孤独感の増加などの課題を解消するため、（1）質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供、（2）保育の量的拡大・確保と教育・保育の質的改善、（3）地域の子ども・子育て支援の充実の 3 点を重点的に取り組むこととなります。このため全国の自治体では、地域における教育・保育及び子育て支援についてのニーズを把握し、これに応じた提供体制の確保方策を内容とする「子ども・子育て支援事業計画」の策定が求められており、金沢市においても、平成 27 年度からの 5 年を 1 期とする「金沢市子ども・子育て支援事業計画」の策定に向けて、ニーズ調査を実施しました。

また、金沢市では、総合的な少子化対策推進行動計画である「かなざわ子育て夢プラン 2015（仮称）」の策定も進めており、本調査は、2つの計画の策定にあたって、市民及び企業を対象として子育てに関する実態や要望・意見などを把握し、計画の策定の基礎資料とするため、アンケート調査を実施したものです。

(2) 調査対象者

本調査は、市内に居住する①就学前児童の保護者、②小学生の保護者、③未婚又は既婚で子どものいない 18 歳以上 45 歳以下の方、④55 歳以上 75 歳以下の方、⑤市内企業の中から、住民基本台帳又は経済センサスー活動調査にご回答いただいた企業を無作為に抽出し、調査を依頼しました。

(3) 調査基準日

- ①・② … 平成 25 年 10 月 1 日（郵送配布・郵送回収）
- ③・④・⑤ … 平成 26 年 2 月 1 日（郵送配布・郵送回収）

Ⅱ. 総括

育児休業が取りやすい環境づくり 4人に1人はフルタイム就労で子育て

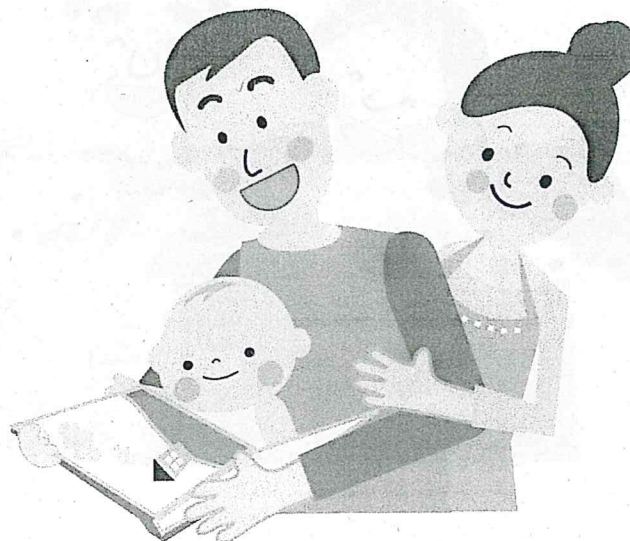
就学前児童を持つ母親で、産休、育児・介護休業を取っている人の割合は、この5年間で6.1ポイント伸び、15.0%となりました。従来よりも育児休業制度を利用しやすい環境づくりが進んでいると思われます。また、子育てをしながらフルタイムで働く女性は25.7%と、4人に1人の割合となりました。

5年前の調査結果と比較すると、パート・アルバイト等で就労中の母親の割合は、ほぼ変化はありませんが、フルタイムで就労中の母親は、3.1ポイント増加しました。また、就労していない母親の割合は8.7ポイント減少し、女性の就労が進んでいることが分かります。

元来、石川県は女性の就労率が全国上位となっており、石川県人口の約40%が集中する中核市である金沢市は、産業化や商業集積が進み、観光などサービス業界からの就労ニーズも高いことから、子育て世代の女性の就労機会は比較的多いと考えられます。

小学生の母親は、就学前児童の母親に比べて就労率は高いものの、5年前と比較して、大きな変化は見られませんでした。

将来の就労意向については、就学前児童、小学生ともにこの5年間で「就労予定はない」が増加し、就労を希望する意向は減少しましたが、就学前児童の母親の80%近くは、将来的には、働きたいと考えています。



「地域ぐるみの子育て」への理解は10%
行政への満足度、5年間でやや向上

行政による子育て支援についての満足度はこの5年間で、やや向上しました。就学前児童の保護者では、「ほぼ満足」が8.9ポイント増加し、50%近くとなりました。一方、「大変不満」がほぼ半減し、6.0%となりました。小学生の保護者においても、「ほぼ満足」はほとんど変化はなく、「大変不満」が4.3ポイント減少しました。

行政の子育て支援についての考えを聞く設問では、今回、5年前の調査にはなかった選択肢の「地域住民が主体となって子育て支援を拡大していく必要がある」を追加しました。この選択肢を選んだ人は、就学前児童の保護者では10.8%、小学生の保護者では14.0%でした。単純に比較することはできませんが、就学前児童では、おおむねこの10.8%の分、「子育てしやすい環境にするために、支援をさらに充実させる必要がある」の割合が減少しました。小学生の場合は、14.0%増加した分について、「支援をさらに充実」が8.2ポイント、「何もかもすべて支援しすぎると、親が親としての自覚が持てなくなるのではと心配になる」が5.7ポイントそれぞれ減少しました。



保育所・幼稚園・認定こども園の増設ニーズ 求められるきめ細やかな支援

平成 27 年度に施行される「子ども・子育て支援新制度」は、子どもの教育・保育、子育て支援を総合的に進める新たな仕組みを目指しています。今回、どのような施策が、少子化対策に有効と思われるかについて調査したところ、就学前児童の保護者が最も多く挙げたのは「保育所・幼稚園・認定こども園の利用料の軽減」(41.3%)でした。ただし、この数値は5年前の調査時より7.0ポイント減っています。5年間で最もニーズが増えたのは「保育所・幼稚園・認定こども園の増設」(15.4%)で、4.6ポイント増加しました。また、「保護者の勤務時間に合わせた保育の実施」も3.9ポイント増加して29.5%になり、未就学児の子育てについて、保育所・幼稚園・認定こども園の充実を求める声が多くなっていると思われます。

小学生の保護者からは、「教育費の負担軽減」を求める声が最も大きく、半数近く(46.9%)になりました。5年前と比べても増加しています。また、児童手当の拡充が18.4ポイント増加し、30.4%となりました。

このほか、就学前児童の保護者では「児童手当の拡充」(23.5%)と「妊産婦・子どもが安心して医療機関にかかることができる体制整備」(10.4%)が10ポイント前後割合を減らしました。また、「減税の実施」(15.0%)も3.9ポイント減少しました。



子育ての次に大事なものは教育
学校の多い金沢の定住促進策

「大人になっても住み続けたいと思うまちにするためには」という質問に対しては、就学前児童及び小学生の保護者も、5年前と変わらず「雇用確保のための企業誘致」を挙げる人がそれぞれ60%以上いました。次に多かったのは、「住環境の整備」で就学前児童及び小学生の保護者とも、40%を超えました。以上のことから、働きやすく住みよい街を求めていることがうかがえます。

5年間で割合が大きく増加したのは、就学前児童の保護者が選んだ「義務教育の充実」(7.7ポイント増)、「高等教育の充実」(5.2ポイント増)などでした。

金沢は、大学など学びの機関が集積してきた都市であり、教育熱心な土地柄で知られる金沢だけに、子育ての延長として、教育問題にも関心が高いと考えられます。

このほか、「まちなみの整備」、「市内公共交通機関の利便性の向上」も、5年前より割合が増加しました。



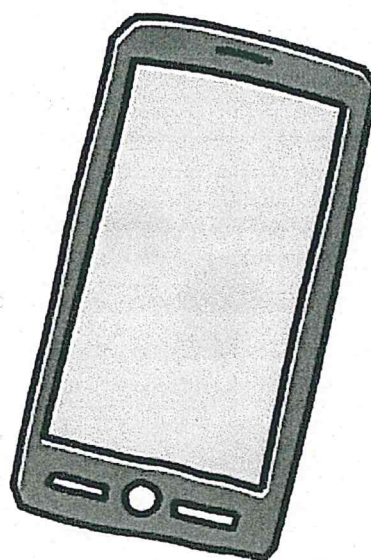
子育て情報発信はスマホが有効
小学生の保護者には「回覧板」も

金沢市が実施する子育ての情報を、保護者がどこから得ているかを調査したところ、「携帯電話・スマートフォン」と答えた就学前児童の保護者の数が、5年前の4倍以上(17.9%)に増加しました。若い母親層に携帯端末が急速に普及し、子育て情報の取得もICT(情報通信技術)に求めている近年の状況がうかがえます。小学生の保護者も、「携帯電話・スマートフォン」利用者が3倍以上(10.5%)増加しました。パソコン利用の割合も、小学生の保護者が増加し、就学前児童の保護者とほぼ同程度(約25%)でした。

「回覧板」の利用者は、小学生の保護者(31.2%)が就学前児童の保護者(13.6%)より倍以上多くなっています。

利用の割合が最も高いのは、就学前児童の保護者では「施設に掲示してあるチラシ」(32.1%)、小学生の保護者では「新聞広報」(44.8%)でした。「新聞広報」は「新聞記事」とともに、5年前に比べて利用者の割合が減少してはいますが、割合はとても高く、主要な情報取得手段の一つとなっています。

子育て支援施策などを新たに展開する際に、最初に必要となるのが事業の広報・PRです。新しい事業の認知度が低く、サービスが利用されないことを防ぐためにも、情報発信には、スマートフォンなどICTを積極的に活用しながら、従来の新聞や回覧板も媒体として利用することが重要と考えられます。



柔軟な職場環境を求める親

ワークライフバランスを認める職場に

ワークライフバランス(仕事と生活の調和)の実現に必要なものは何かを調査したところ、就学前児童及び小学生の保護者とともに、5年前と同じく「フレックスタイム制、短時間勤務、時差出勤など多様な働き方の導入」との回答が、それぞれ43.2%、40.7%で最も多くなりました。ワークライフバランスの実現のために、柔軟な職場環境を求めるニーズが高いと考えられます。

一方、未婚又は既婚で子どもがいない18歳以上45歳以下の市民の方は、育児や介護のために休業制度が必要と回答した方が43.5%で最も多くなりました。子どもがいない人にとっても、子育て中の休業制度のニーズが高いと考えられます。

次に、「ワークライフバランスを認める社会・職場のムード」が必要との回答が、小学生の保護者では2番目に高く(31.5%)、未婚又は既婚で子どもがいない18歳以上45歳以下の方でも2番目(34.0%)となっています。

社会や職場の雰囲気の改善を求める声は、5年前も回答者の30%を超えており、今も同じニーズが高いことから、より一層、ワークライフバランスを認める社会や職場での意識の醸成が欠かせません。

現在、仕事と生活の調和の促進や職場環境の改善などに積極的に取り組む事業者を「はたらく人にやさしい事業所」として、金沢市が表彰する制度など、企業に任せるだけでなく、行政としてワークライフバランスを推進する施策がさらに必要と考えられます。

就学前児童は病気や発育・発達に悩む保護者
小学生になると教育に悩む保護者

子育てについて悩んでいることは何か調査したところ、就学前児童の保護者では「子どもの病気や発育・発達に関すること」が 32.8%で最も多くなりました。次に、「仕事や自分のやりたいことが十分できない」が 32.5%となり、自分の時間を持たず、子育てのストレスをうまく発散できない親が多くいると推測できます。

発育に関する悩みや子育てのストレスは、次の出産を控える一因となるとともに、児童虐待の原因にもなり得ることから、子育ての精神的負担感の解消は急務といえます。

一方、小学生の親は、「子どもの教育に関すること」が 43.3%で最も多く、「子育てに係る経済的負担が大きい」(28.9%) を約 15 ポイント上回りました。

子育てについて悩んでいること

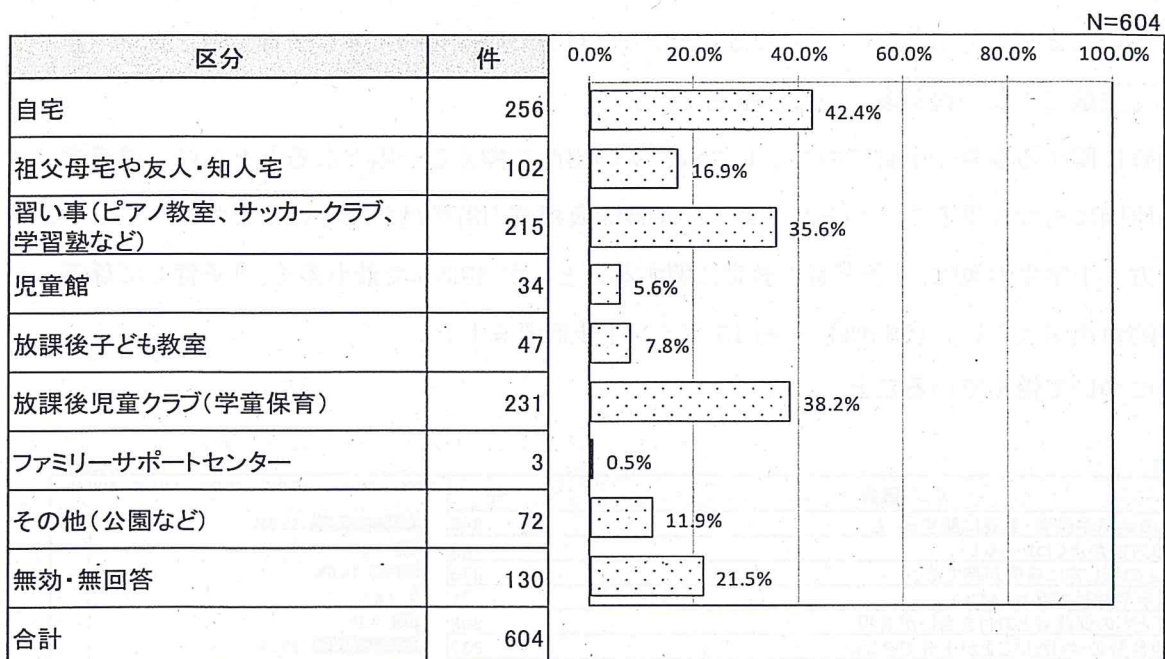


(2) 小学校入学後に放課後の時間を過ごさせたい場所(複数回答可)

就学前児童の保護者

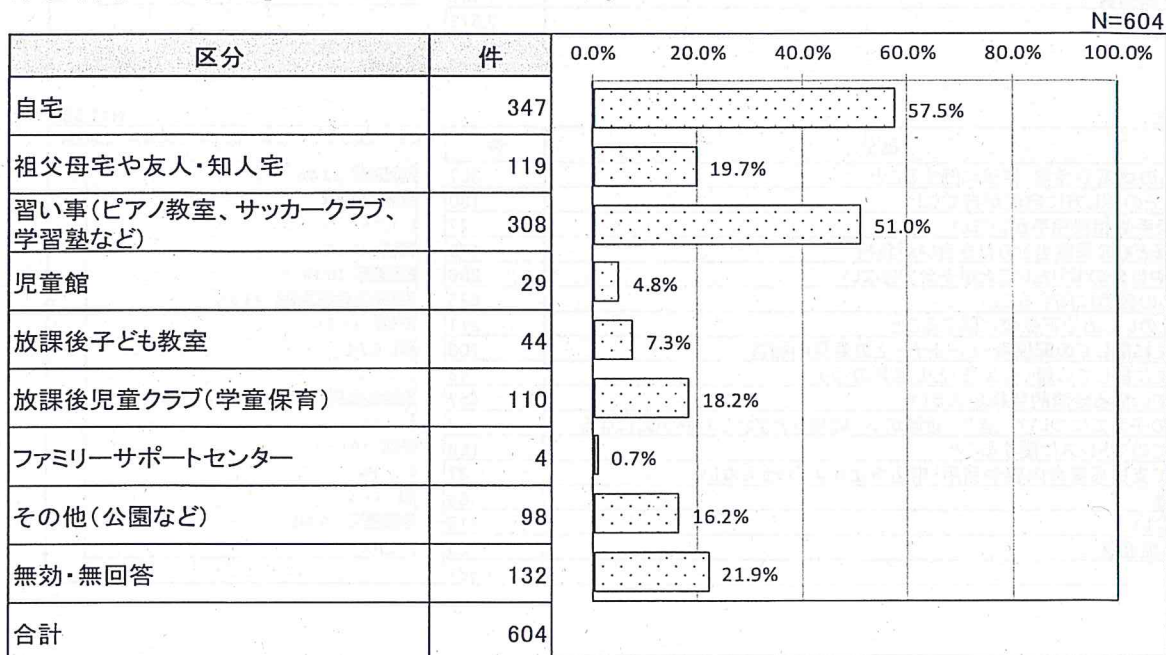
○低学年時(小1~3年生)

小学校低学年のときに、放課後の時間を過ごさせたい場所について、「自宅」が42.4%で最も多く、次に、「放課後児童クラブ(学童保育)」が38.2%、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」が35.6%となっています。



○高学年時(小4~6年生)

小学校高学年のときに、放課後の時間に過ごさせたい場所について、「自宅」が57.5%で最も多く、次に、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」が51.0%、「祖父母宅や友人・知人宅」が19.7%となっています。

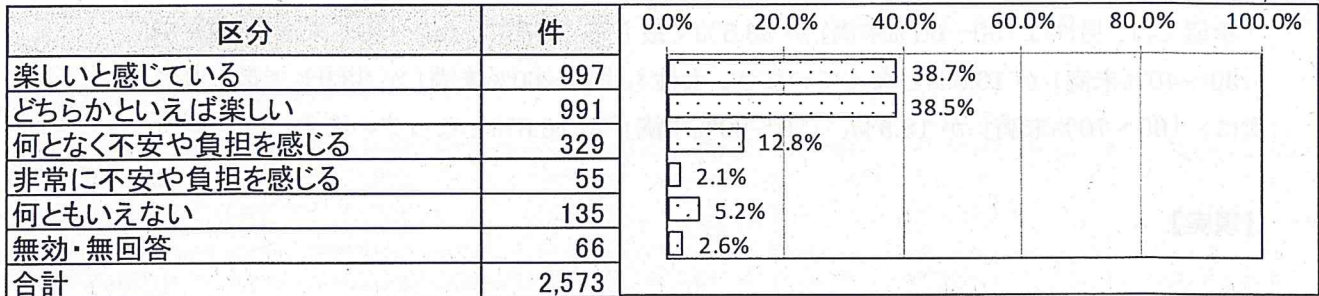


(3) 子育てに関して感じていること

就学前児童の保護者

子育てに関して現在どのように感じているかについて、「楽しいと感じている」が 38.7%で最も多く、次に、「どちらかといえば楽しい」が 38.5%、「何となく不安や負担を感じる」が 12.8%となっています。

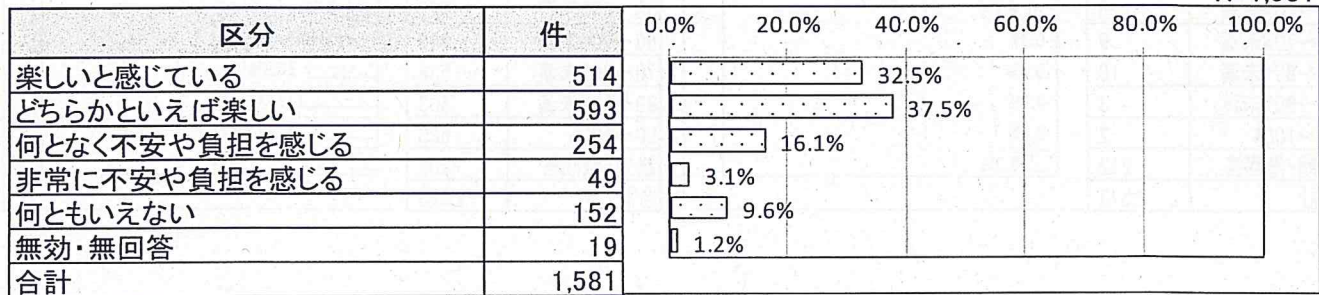
N=2,573



小学生の保護者

「楽しいと感じている」、「どちらかといえば楽しい」が 70%で、「何となく不安や負担を感じる」、「非常に不安や負担を感じる」は 19.2%でした。

N=1,581



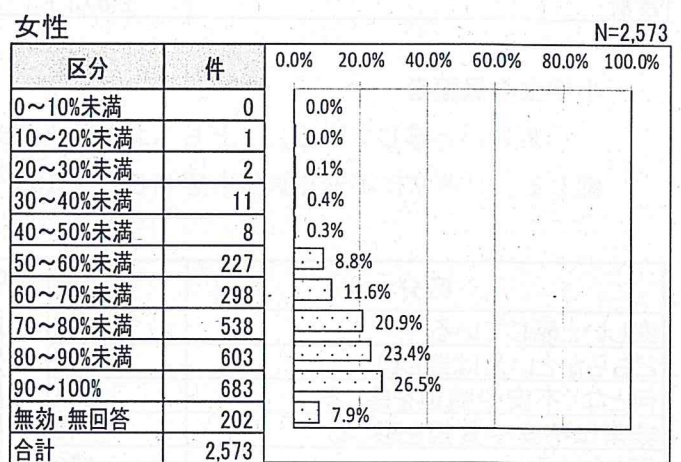
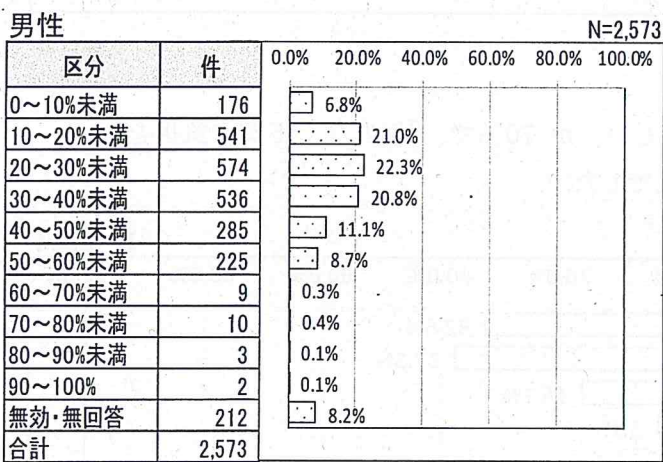
(5) 育児に関わる割合の現実と希望 (男女合わせて 100%)

就学前児童の保護者

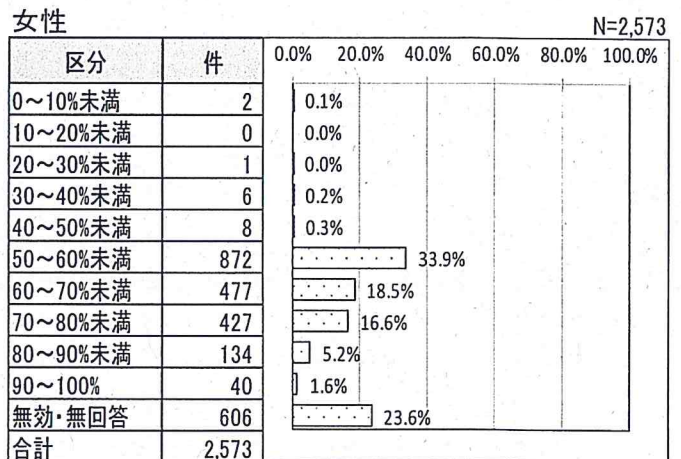
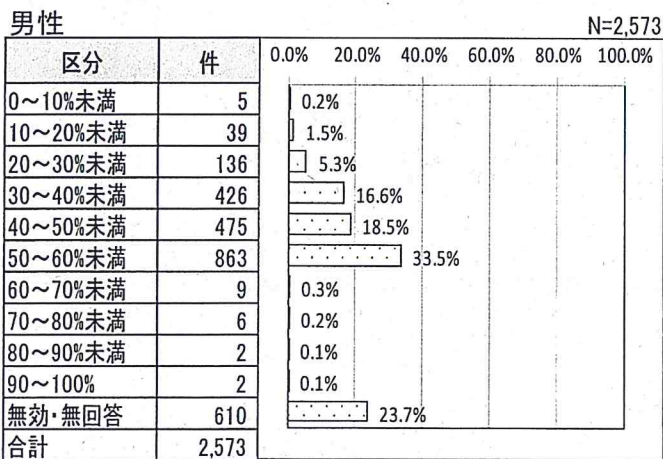
育児に関わる割合について、現実では、男性は「20～30%未満」が 22.3%で最も多く、次に、「10～20%未満」が 21.0%、「30～40%未満」が 20.8%となっています。女性は「90～100%」が 26.5%で最も多く、次に、「80～90%未満」が 23.4%、「70～80%未満」が 20.9%となっています。

希望では、男性は「50～60%未満」が 33.5%で最も多く、次に、「40～50%未満」が 18.5%、「30～40%未満」が 16.6%となっています。女性も「50～60%未満」が 33.9%で最も多く、次に、「60～70%未満」が 18.5%、「70～80%未満」が 16.6%となっています。

【現実】



【希望】

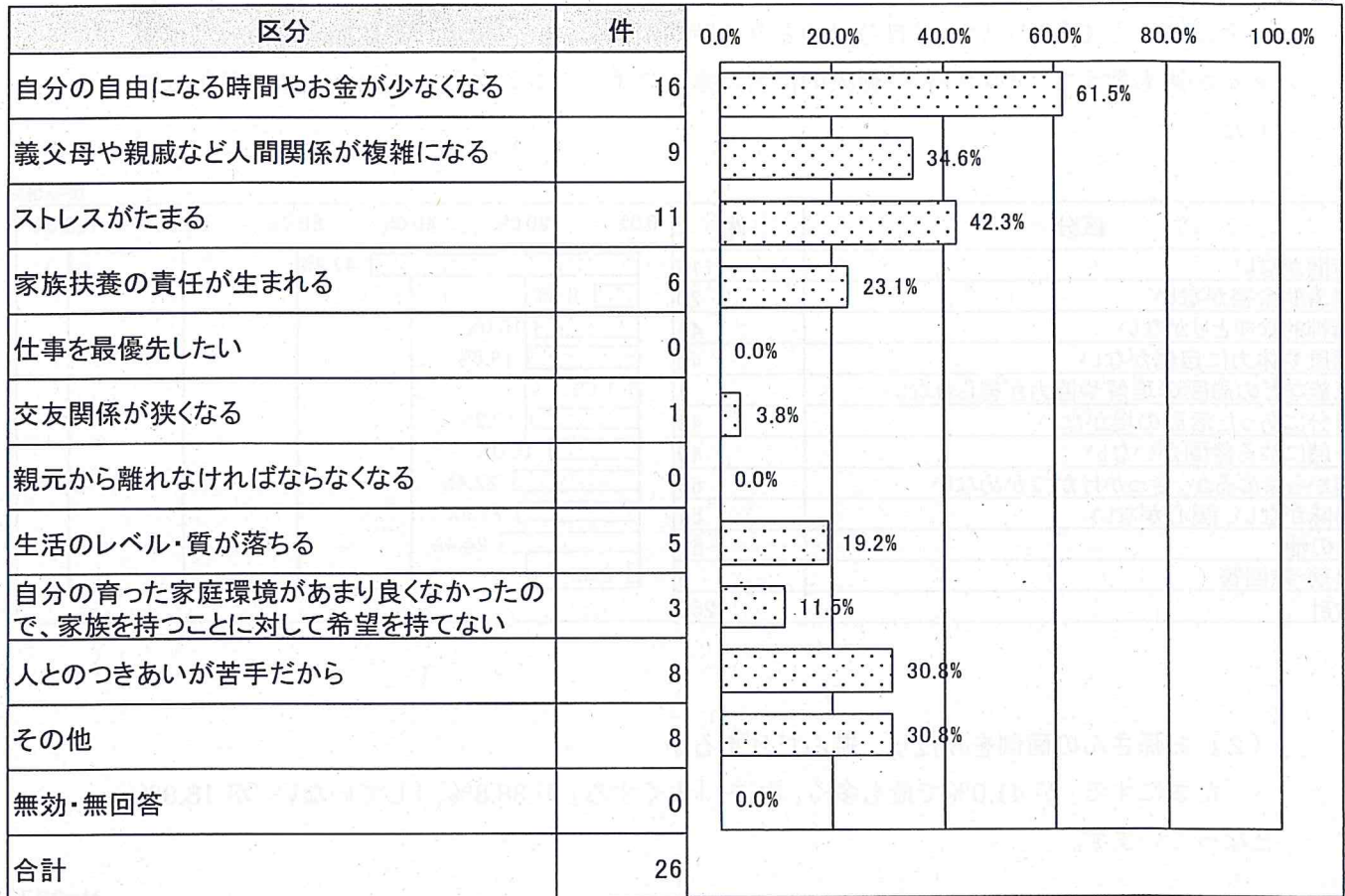


未婚又は既婚で子どもいない18歳以上45歳以下の方が対象

(1) 結婚しようと思わない理由 (複数回答可)

「自分の自由になる時間やお金が少なくなる」が61.5%で最も多く、次に、「ストレスがたまる」が42.3%、「義父母や親戚など人間関係が複雑になる」が34.6%となっています。

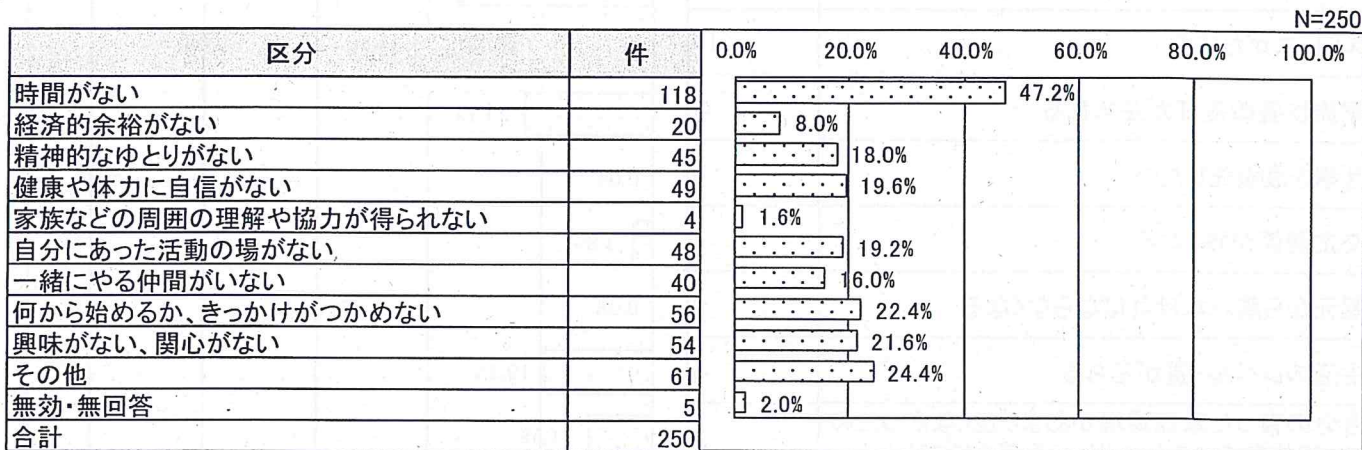
N=26



55歳以上75歳以下の方が対象

(1) 町内活動・地域活動・ボランティア活動に参加していない理由について(複数回答可)

「時間がない」が47.2%で最も多く、次に、「何から始めるか、きっかけがつかめない」が22.4%、「興味がない、関心がない」が21.6%となっています。その他の内容としては、「意欲はあり、何にでも興味はあるが、地域では、70才以上は除外されていることが多い」、「今はまだとても忙しいので自分にゆとりの時間がほしい」、「母親が認知症のため」、「何があるか誰も教えてくれない」、「個人的に習い事、スポーツジムに行っている」などがありました。



(2) お孫さんの面倒をみたり、遊んだりするか

「たまにする」が41.0%で最も多く、次に、「よくする」が38.8%、「していない」が18.9%となっています。

